

宍道湖・中海水産振興対策検討調査事業
- アオノリ類養殖試験（抄録） -

阪下考研^{*}・島村京子・中村幹雄・向井哲也

調査の詳細は「平成 12 年度宍道湖・中海水産振興対策検討調査事業アオノリ類養殖試験報告書」に報告した。

試験の目的

- ・ 徳島水試考案の養殖手法について中海での再検討。
- ・ 季節や場所によるアオノリ類の生長の比較。

試験内容と方法

育苗・採苗は徳島水試考案の手法に基づいて行った。

(1) 育苗

中海沿岸で自生アオノリ類を採集し、成熟促進処理後、育苗水中で成熟させた。

(2) 採苗

成熟したアオノリと養殖網を同じ水槽に移し、アオノリ類から放出された胞子を養殖網に付着させた。

(3) 生長確認

胞子を付着させた養殖網を中海 3 箇所に設置（水深 10cm、30cm、50cm）し、アオノリ類の発芽生育を観察した。

調査結果

(1) 育苗

本試験では、育苗 3 日目で、試験に供したアオノリ類の半分以上が成熟し、胞子の放出が確認された。

(2) 採苗

採苗が施された養殖網上では、中海設置後約 1 週間で、多数のアオノリ類の発芽が確認された。

(3) 生長確認

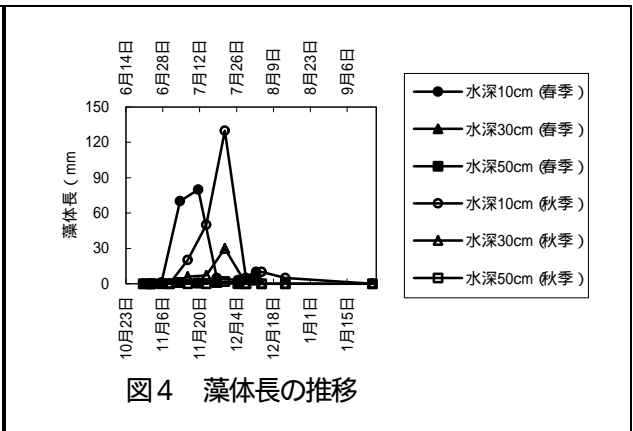
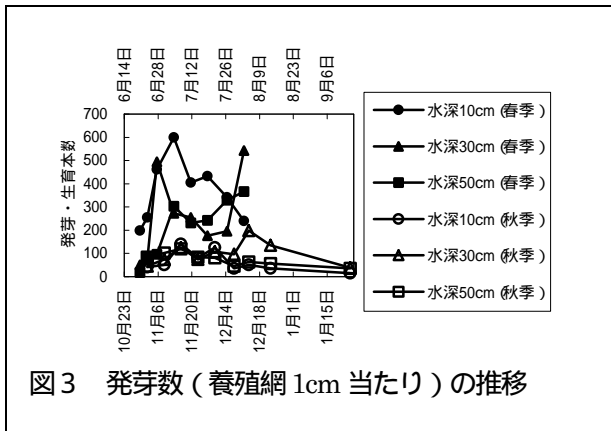
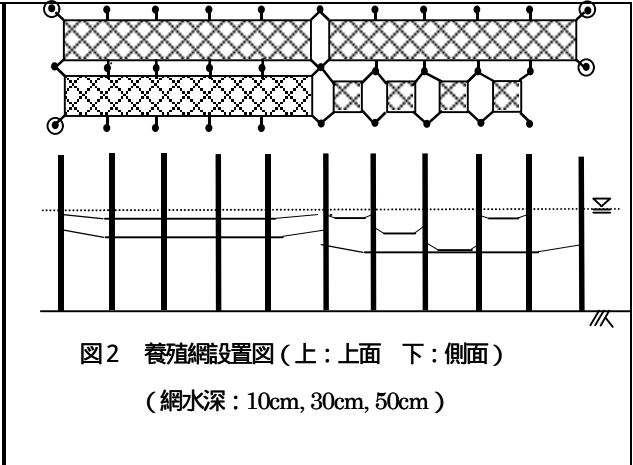
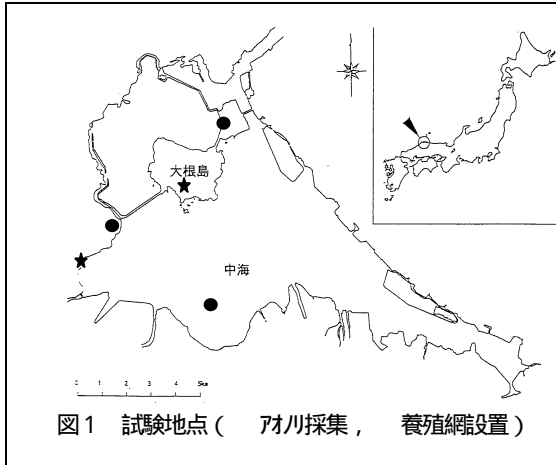
発芽数は養殖網設置後、3 週間前後にピークに達した。春季は水深が浅いほうが多くなる傾向があったが、秋季では水深による違いはほとんどなかった。また、春季のほうが秋季よりも多くなる傾向が見られた

藻体長については、設置後 4,5 週間で最大長に達した。春季、秋季とも水深 30cm 以浅では最大 3~13cm 程度の生長が見られたが、水深 50cm ではほとんど生長が見られなかった。また、秋季のほうが春季よりも長くなる傾向がみられた。

考察

育苗については徳島水試の結果とほぼ同じであり、同水試の手法が中海でも適用できることが示された。しかし発芽、生育については本数が少なく、藻体長も短い。また発芽、生長とも遅い。さらに各地点間でも多少差が見られる。これらの原因として、採苗が不十分、養殖網設置地点の環境条件の違いによる影響などが考えられる。

* 日本ミクニヤ株式会社



アオリ養殖網の状況



大海崎 水深10cm 平成12年7月18日



大海崎 水深30cm 平成12年12月7日